

秋まつりや様々なイベントの予定された日曜日の開催となりました。

今年で2回目の演奏会ですが、昨年よりも参加者が増えた事、うれしいことでした。京都市交響楽団のメンバーによる名曲の演奏と楽しいトークで、会場の皆さんも満喫された午後のひとときではなかったでしょうか。

ヴァイオリン、ピオラ、チェロなどの楽器のお話、楽器や曲目にまつわる小話、など「初耳学」も披露していただくなど、知識も増えました。高価なヴァイオリンを盗まれないようにピオラのケースに入れておくとか、チェロを演奏会場にまで運ぶには一人分がそれ以上の運賃が必要等々・・・それにしても、演奏家というのはものすごい体力のいる仕事ですね。

ぜひ、北近畿校の講座にも京都校の様に、他の講座と半々でもいいので、音楽鑑賞の講座を設けてほしいという願いも寄せられています。



### 参加者の声から

カノンが楽器のおしゃべりのようでよかった

来年も演奏会を希望します。

ジャズも混じって踊りたいような気分になった。

楽器紹介の後一つの楽器が主役になっている曲が聞け、それぞれの楽器の音色が十分味わえた。

トークで新しいことを教えてもらった。曲も久しぶりの懐かしさがあった。

質問のコーナーがあれば嬉しい

是非音楽講座を開いてほしい。MCの人が楽しかった。

### 第6回 健康講座

介護予防 10月26日 / 講師：足立まり子氏

講義の導入は「介護」を「介」と「護」に分解して「介護」の意味を考える、ちょっとした脳トレ。介護の歴史・明治から時代ごとに新しい法や施設などが整備されてきた事、現在の介護保険制度までをざっと説明していただきました。

考え方を「リフレーミング」して前向きな思考を身につける一例  
例えば「がんこな人」⇒「信念のある人」、「おしゃべり」⇒「社交的」といった具合です。なかなか難しいですが、物事の見方を変えてみると、これからの生き方も変わるように感じました。

最後に先生は、「この社会人大学で学ぶことが介護予防です」とおっしゃいました。



夫とともに参加しています。家事の“ススメ”が自分のためであり介護予防であるとのことがお話よかったです。これから二人で考えていきたいと思えます。

「考え方をリフレーミングして前向きな思考を身につけましょう」これは為になります。日常生活でもリフレーミングすることを身につけると、自身が楽になるのではないかと思います。まずは家族から始めてみます。



## 来年度は6講座で 各8回

2019年度の講座の準備を進めています。たくさんの講座の希望をいただきながら、なかなかお応えするのが難しいのですが、現行の講座に1講座増やして開講します。概要は以下の通りです。受講申し込み用の詳しいパンフレットは、12月にできる予定です。来年も是非！！

### 漢字学 講座

(毎月第4木曜日)

新講座

講師に久保裕之氏（立命大川白静記念東洋文化研究所・漢字教育士）を迎える予定です。漢字の発生とその発展の歴史、人体、動物、植物から生まれた漢字の成り立ちなどを通して漢字の謎に迫ります。

### 歴史 講座

(毎月第2水曜日)

年間を通してのテーマを「由良川歴史物語」とし、古代の由良川、安寿と厨子王の時代の由良川、中世の由良川、由良川の治水等、様々な角度から由良川にまつわる歴史を学びます。(一部現地開催も検討)

### 自然科学 講座

(毎月第3木曜日)

地学系4回と科学系4回で構成。

**地学系** 化石・郷土資料館（夜久野）、丹波化石工房等現地での開催が中心になります。今年好評だった「宇宙の話」も継続します。

**科学系** バイオの話など、4回開催。

引き続き、まだまだ  
**新 運営委員さん 募集中!**

「やってみたいかな」  
「やってみよう」  
「やってみよう」  
「やってみよう」

### 健康 講座 (毎月第4金曜日)

実技も交えた現行の講座形態を継続します。

### 時事問題 講座 (毎月第1火曜日)

政治(国際、国内)問題、社会問題から次年度に焦点になりそうなテーマ、関心の高いテーマを取り上げます。北朝鮮やロシア、EUの動向、国内問題では消費税と税制、エネルギー問題等を取り上げる予定です。

### 美術鑑賞 講座 (毎月第2月曜日)

西洋美術、日本美術、現代美術を各2回計6回学びます。加えて、木と漆の館、黒谷和紙等現地での開催を検討中。

## 2019年度 新しい「学ぶ仲間」を 迎えましょう

募集パンフレットに掲載する「現受講生からおススメの一言」(講座ごと)を募集します。今月の感想用紙に「2019おススメ」と書いて、ぜひお願いします。あなたの呼びかけが、誰かの受講のきっかけになるかも、です。



# 10月の各講座の概要と、ひとこと感想から(感想は一部を抜粋したのものもあります ご了承ください)

## 第6回 時事問題講座 —

### 憲法問題③憲法改正の手続きにかかわって

10月2日 / 講師：大河原寿貴弁護士

96条第1項、「総議員の3分の2以上の賛成」、「国会が発議」、「国民の投票により過半数の賛成」、の条文から日本国憲法の大切さと重みを深く学んだ講義でした。



近代憲法は為政者を縛るもの(立憲主義)であり変えにくくされている。その近代憲法を持つ諸外国の手続きと改正状況。憲法改正には限界説と無限解説があり、前文の「人類普遍の原理」、9条の「永久にこれを排除する」、97条の基本的人權の保障「現在および将来の国民に対し、犯すことのできない永久の権利」などによる限界説が有力であることを学びました。

既に、自民党は、国会法68条の3「内容において関連する項目ごとに発議」に基づき4項目、①9条の2 ②緊急事態 ③参院選挙制度 ④教育の無償化で準備をすすめていること。国民投票の「最低投票率」の規定がないなど「手続法」上でも多くの問題があること。また、「自由な国民投票運動」の裏には、CMへの圧倒的支配力を持ち、自民党の影響のある広告代理店やマスコミによる「有料広告の自由」もある、などのリアルな実態も報告され、国民主権の運動=3千万署名の運動の重要性を改めて感じた講義でした。

多数決の横暴や立憲主義、国民主権から遠ざけられた国民の応戦力は弱い…等と思いながら前半の話を聞いていたが、後半ではマスコミに支配され誘導されてきた国民の生活のレベルでまるごと『改正』に持って行かれてしまうと恐れる。

今、大変関心のある現実問題で、まだ遠いと思っていたが国民投票に至る道筋を聞くとすぐ近くにきた感じがする。



## 第6回 自然科学講座 — 一から学ぶ原発問題

10月18日 / 講師：市川章人氏

かつて「知れば知るほど、在沖米海兵隊の存在が必要だということが判った」と言った首相がいましたが、本講座では、学べば学ばほど原発は危険が大きすぎるし不必要であることがよくわかりました。

講座の最初に、原発の熱変換率は火力の80%に対して30%であると話されましたが、この数字だと昭和30年代の内燃機関とさほど大差がありません。原発はコストが一番安く効率的だと聞かされてきましたが、そうではないことがわかりました。

原発は、核分裂によって自然界にないものをつくり出しています。コントロールできなければ、放射線や放射性物質は物を突き抜けて人体を傷つける性質のものです。また、つくり出したものの一つに、放射能のゴミといわれているものは、未だに処理ができる目途もたっていないことは、原発問題について、廃炉も含め国民の間で考えていかなければ解決できないと語られました。



現在の電力の安さも、もろい原子力発電に頼っている。背筋が寒くなる。我々はどうすればいいのだろうか？ ただ反対？ 原子力を止める。どこへもっていく？ 最終的な処理場所、他人の所はOKでも自分の所は、Not OK。誰かが犠牲に…犠牲的精神で。

## 第6回 歴史講座 —

### 夏目漱石「現代日本の開化」

10月10日 / 講師：井口和起氏

今回の講座は、漱石が地方講演で語った、題して「現代日本の開化」を通して、漱石が明治の時代をどう感じていたのかを学びました。漱石は、例をあげたり例え話を入れたりし、講演上手だったということです。このためか現在にも理解できるようなところがあります。例えば「戦争以後、一等国になったんだという高慢な声は…」などは、「戦争以後」を「高度経済成長で」と置き換えれば思い当たるフシがあるのではないのでしょうか。また漱石は、日本の現代の開化は外発的であると述べていますが、これは外から他の力でやむを得なかったしています。このことによって現代日本の開化は皮相上滑りの開化であるということに帰着する、と断じています。この中では、開化は生存競争を激しくすることも指摘しています。もし漱石が現在を生きていて、第二次大戦後の日本をみれば、同じことを語ったかも知れません。明治の時代はまだ続いているのかということも知りません。講義の中で漱石は、日本の国情をよく知っており、明治の時代は借金まみれだと語っています。この借金は第一次大戦で"チャラ"にしたということです。第二次大戦後の不景気も朝鮮戦争の特需で好景気にかえりました。他人のフンドシで何とやらです。

それから、大作家の漱石が神経衰弱に悩まされていたということには驚かされました。だからこそあれだけの作品を世に出せたのでしょうか。



今日のように、質問・論議の時間が小々でもあればと思いました。

漱石の評論で比較した、その時期時期の小説を読むと面白いと思った。漱石の気質・環境・経験・思想の苦悩が少しわかり、身近に感じると同時にますます偉大に思った。



生活衣館は予想以上に面白かった。次の機会には織りの体験もやりたい。

## 第6回 美術鑑賞講座 — 佐藤太清記念美術館・ 福知山城・

福知山生活衣館の見学 10月15日

福知山の地形については知らないことばかりを教えてくださいいただき嬉しく思いました。佐藤太清記念もていねいな説明で大変わかりやすかったです。すてきな絵に会うことができ、大満足です。

参加者は2班に分かれ、福知山観光ガイドの会の方に福知山城を案内していただきました。お城や石垣の説明はもちろん、眼下の景色を眺めながら市街地の成り立ち(由良川が大きくコース変更されていたなんて知らなかった!)などのお話も興味深いところでした。

2時間立ちっぱなしだったので腰が痛くなりました。年のせいだと思います。できれば座る時間も確保してほしいです。

次はお隣の佐藤太清記念美術館。学芸員さんに解説いただきながら鑑賞しましたが、2階で開催されていた村井正之作品展の、引き込まれるような群青色の世界にみんな「はあ〜すごい」。

生活衣館も見学し、説明員のお話を聞きました。江戸時代中期ころから、丹波地方で農家の女性の仕事として、綿の栽培、糸を紡ぎ、藍で染め、木綿の夜着(布団)や日常着として作られてきた歴史を知りました。河口三千子さんという方が収集されて来たものを保存するために、市民の皆さんが署名活動をされて作られた施設だそうです。織機の実演もできるので、機会があればまた行ってみたいところでした。

ごもっともです。次回はあれもこれもと欲張らず？配慮します。  
— 運営委員会